



尾瀬

自然保護に力を尽くした理学博士

武田久吉と尾瀬・吾妻の自然



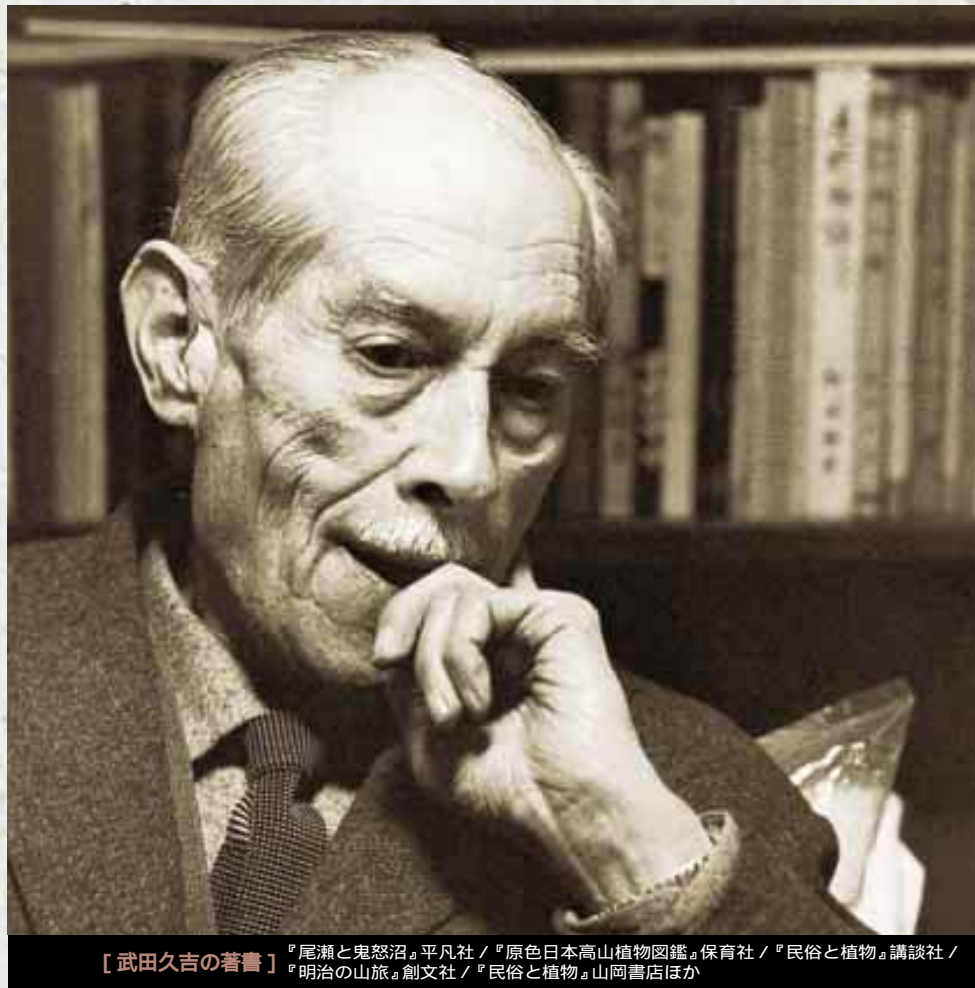
三尾瀬公園 武田久吉メモリアルホール

福島・群馬・新潟の3県にまたがる本州最大の湿原、日光国立公園・尾瀬。高山植物の宝庫としても有名なこの地が、ダム湖の湖底に沈んでいたかもしれないということを知っていますか。

日本の自然保護運動は尾瀬から始まったと言われています。その草分け的な存在として知られるのが、日本山岳会設立者の一人でもある武田久吉理学博士です。尾瀬、さらには吾妻の自然とのかかわりも深かった博士の足跡をたどってみました。

武田久吉略歴
明治16年(1883)イギリス公使アーネスト・サトウを父に東京で生まれる。登山家でもあった父の影響で幼いころから山に親しみ、植物研究を主な目的として多くの山を訪れた。明治38年に小島烏水らと日本山岳会を設立、高山植物の分類と分布の研究を続けるかたわら自然保護に力を尽くす。昭和47年(1972)89歳で死去。

明治23年(1890)に檜枝岐村の平野長蔵によって開かれた尾瀬。明治39年、日本山岳会機関誌創刊号に武田久吉博士が発表した紀行文には、「この世の物とは思われず」と地形やその素晴らしさが細かに記され、一躍その名が全国に知られるようになりました。しかし訪れ



【武田久吉の著書】『尾瀬と鬼怒沼』平凡社 / 『原色日本高山植物図鑑』保育社 / 『民俗と植物』講談社 / 『明治の山旅』創文社 / 『民俗と植物』山阿書店ほか



武田久吉メモリアルホール(檜枝岐村)

尾瀬の自然をもっと手軽に楽しんでもらおうとつくられた三尾瀬公園。その管理棟の2階にあるメモリアルホールには、武田久吉博士愛用の写真機や登山記録など、数々の貴重な品が展示されています。交通/会津鬼怒川線会津高原駅からバス90分三尾瀬公園下車 ☎0241-75-2065(5月~11月開園)



と云っていた山にヘリコプターで行った際、先生がドアに手を挟んだまま飛んでいたことがあったんです。気づかなかった私の落ち度になると思っただけですが、そのとき着くまで何も言わなかったんですよ。その気遣いと我慢強さには、頭が下がる思いです。先生は尾瀬に開発の手が及び、世界的に貴重な植物が失われていくことに心を痛め、昔の姿のまま残したいとずっとお考えでした。私自身、長蔵小屋の3代目平野長蔵さんと一緒に尾瀬の自然保護運動をしていた時期もあり、先生はいつも私たちを励ましてくれていました。その先生が亡くなられた後、何とかお名前を尾瀬に残したいと思い、檜枝岐村に遺品などを提供し、「武田文庫」を作ってもらいました。そのご縁で、先生のメモリアルホール建設にあたりぜひもっと資料を提供してほしいとの話がありましたので、遺族の方や日本山岳会にも協力をお願いして実現できたわけです。よっやく責任が果たせたような気持ちです。(談話)



武田久吉博士(前列右)平野長英氏(前列左)土橋進一さん(後列)

の学術的調査の発表として話題になりました。昭和24年には国立公園審議員として再び吾妻を調査し、山小屋の日記に「吾妻火山群の美しさはその森林にあると思つ」と書き残しています。吾妻・安達太良・磐梯はその翌年、磐梯朝日国立公園として指定され、福島・新潟・山形の3県にまたがる全国第2の面積を誇る国立公園が誕生。名実ともに福島を代表する観光地としての歩みが始まりました。

登山道や木道が整備され、手軽に楽しめるようになった尾瀬と、天然記念物の奥花・ネモトシヤクナゲの自生地を有する吾妻。本県が誇るかけがえのない自然には武田博士の自然を愛する熱い思いが息づいています。

参考文献/尾瀬100年「登山と自然保護」宮澤邦一郎 日本山岳会福島支部創立50周年記念誌「やまなま」

尾瀬を抱く檜枝岐村に昨年、三尾瀬公園とともに、武田久吉メモリアルホールがオープンしました。その建設にあたって貴重な資料を提供するなど力を尽くされたのが、武田博士晩年の尾瀬行に随伴していた土橋進一さん(70歳・山梨県牧丘町在住)です。土橋さんに博士の素顔を振り返っていただきました。

私はカメラと尾瀬が好きというだけで、山岳にも植物にも門外漢なのですが、昭和40年ころから尾瀬にある長蔵小屋の平野長蔵さんを介して直接武田先生に指導を受けることができました。プロに対しては厳しい方でしたが私にはとても優しい方だったという印象が強いですね。亡くなる数年前、先生がぜひ行きたい



福島県自然保護活動について

福島県自然保護協会 星 一彰 さん

県の協会が発足したのは昭和46年(1971)で、現在の会員数は210人です。私は田島町の出身で、中学生のころ尾瀬を訪れて以来、尾瀬保護財団評議員、県尾瀬保護指導員などを務めた関係で、今でも年数回尾瀬を訪れています。

尾瀬保護財団の発足や尾瀬サミットの開催など、尾瀬の保護に関して人々の関心は高まっていますが、まだまだ理解している人は少ないのが現状です。そのため保護指導員の養成などにも力を入れています。また尾瀬だけでなく、裏磐梯や吾妻などの自然保護活動も行っており、裏磐梯地域を対象とする緑のダイヤモンド計画への参加や、隣接する山形県と共同での保護活動など、私たちの活動の領域も広がっています。



吾妻小富士